

You are a vision.

渡 邊 信

「英語の発想と論理 A・B」と言う授業を担当している。麗澤大学外国語学部英語コミュニケーション専攻 2 年次生対象の英語学(English Linguistics)の概説科目だ。以前は「英語学概説 I・II」という授業名だったが、より親しみ易い名称にということで現在の呼び名になった。目標は 2 つ: ①受講生に口語英語(特に米語)に慣れてもらうことと、②英語語法・文法研究の楽しみを味わってもらうことだ。コミュニケーション重視が叫ばれている日本の英語教育ではあるが、入学生の多くは、聴く・話すと言う音声言語のやり取りにはあまり慣れていないようだ。やはり受動的に読む活動が多いのだろうか。

個々の英語学習者の到達目標にもよるが、英語を専攻する学生ならば音声言語で教養のあるネイティブ・スピーカーと互角にやり取りできるようになって欲しい。そのためには口語英語のスキルを修得しようとする日々の研鑽に加え、意識的に口語英語の特性を学ぶ必要があると思う。更に、自分で口語英語の語彙や文法の特性を発見できる研究技術が身に付けば「英語のプロ」への一歩が踏み出せるだろうし、「ネイティブ・スピーカーの直感」(native speaker intuition) がない私たち学習者にとっては大きな強みとなる。

今は『プラダを着た悪魔』(*The Devil Wears Prada*, 2006) を題材にしているが、主人公の年齢設定も近いからか学生も感情移入が容易で、楽しんで取り組めるようだ。なぜ英語学の授業で映画なのか。以前は、理論言語学の入門書を使って講義していた。ただ、講義内容と受講生の興味は乖離していたと思う。英語専攻の学生は「実用英語」、特に聞く・話すことの上達に大変関

心が高いのに、英語学で扱うデータには、いつ・どこで・誰がどのような場面で使用したのかが明らかでなく、実用価値があまりなさそうな文が多い。興味が持たなくても無理はない。そこで映画のセリフを分析の対象としてはどうかと思いついた。なにより実用的だし、音声はもとよりコンテキストが映像で与えられるという利点がある。

映画(あるいはテレビ番組)を教材としているため、「易しい英会話」のクラスだという勘違いして受講する学生もいる。だが、もっぱらネイティブスピーカーの娯楽の為に作られている映画は英語学習者にとってはむしろ難度の高い教材である。会話独特の言い回しは学校教育では教えられないものも多く、また辞書では見つけられない用法も頻出する。当然話すスピードも早いし、文化背景の知識がないと理解ができないことも多いだろう。日本の中学校・高校で英語教育を受けた一般的な学生にはなかなか歯が立たない。では、どうしたら良いか。「慣れる」のが一番だと思う。そのために私が学生に伝えたい勉強法は、『スクリーンプレイ・シリーズ』など映画のセリフを英語及び日本語で文字化したものを使って学ぶことだ。お気に入りの映画のセリフをDVDで発音やジェスチャーを確認し復唱しながら徹底的に暗唱するのがいい¹。

映画やテレビ番組のセリフは「創作」なので自然発話とは異なる²。だから英語教材や英語学の研究対象としては不適切であるという意見もあろう。ただ、映画やテレビ番組を使って英語を学んで「変な英語」を修得してしまったという人を私は知らない。EFLやESLの教科書で扱われる会話は創作されたものがほとんどなので、これらも不適切ということになる。小説はもちろん創作なので教材や研究対象には適さないということになってしまうが、このような批判は聞かない。書き言葉が上で、話し言葉が下、更には音声や映像を「ポップ・カルチャー」として軽視する態度が根底にないだろうか。

映画やテレビ番組のセリフは、英語の語法研究の題材の宝庫でもある(倉田、2011)。特に新しい口語表現に焦点を当てれば、今まで詳細に記述・分

¹ 英語教育における映画の効果的な使用方法についての詳細は『映画英語授業デザイン集』(映画英語教育学会東日本支部、2012)を参照のこと。学術的な知見に関しては日本映画英語教育学会紀要『映画英語教育研究』(ATEM Journal Teaching English Through Movies)を参照のこと。

² 映画やテレビ番組のセリフと自然発話を文法の観点から比較した研究は少ないが、Quaglio (2009)ではニューヨークが舞台のシチュエーション・コメディ『フレンズ』のセリフと自然発話がコーパス手法を用いて比較・検討されている。大変貴重な先行研究である。

析されていないものも多く、実質的な英語学上の貢献をすることも可能だろう。実際、主に映画・テレビ番組のセリフをデータとして優れた修士論文を書き、その後英語学者を目指して現在国立大学法人の後期課程で博士論文を執筆している本学出身者が現時点で4人いる。

以下、『ブラダを着た悪魔』から1シーンを引用して、その中にある口語英語に特徴的な表現(下線部分①-⑨)を検討したい:

(1) (『ブラダを着た悪魔』: 01:01:30)

Christian: Look at you.

Andy: Hello.

Christian: You're...①you're a vision. ②Thank God I saved your job.

Andy: You know, I figured out a few things on my own too. Turns out, I'm not as nice as you thought.³

Christian: ③I hope not. Well,④ if it weren't for the stupid boyfriend, I'd have to whisk you away right here and now.

Andy: Do you actually say things like that to people?

Christian: ⑤Evidently.

Andy: Well, I ⑥gotta go.

Christian: ⑦Are you sure? 'Cause my editor for New York Magazine is inside and, you know, I could introduce you two. You sent over your ⑧stuff for me to look at. Remember?

³ 「あなたが思った程、いい人じゃなかったってわけ」—このセリフは2人の出会いのシーンと関連付けられている:

(i) Andy: I'm working as Miranda Priestly's Assistant.

Christian: Oh, you are kidding. Oh, that's too bad. That's...Whoa. You'll never survive Miranda.

Andy: Excuse me.

Christian: Well, you seem nice, smart. You can't do that job. (00:41:07)

「いい人」だったら続けられないミランダのアシスタントを続けていられるアンディはいい人ではない、という理屈。

Andy: Yeah.

Christian: All right, I ⑥ gotta admit, I only read a couple. It was a very large packet you sent. But ⑦ what I did read wasn't half bad. And, you know, I think...I think you have a talent, Andy. He should meet you. Why don't you come in? Just for one drink.

Andy: Um, okay, yeah. I guess I could for one...No, I can't. I'm sorry, but I have to go.

Christian: All right. Give my best to the boyfriend.

ここまでのあらすじはかいつまんでいうと以下の通り。大学を卒業したばかりのアンドレア(通称アンディー)、ジャーナリストを夢見てニューヨークへ。しかし世間は甘くはなく、やっと見つけたのはファッション雑誌 *Runway* のカリスマ編集長ミランダの第2秘書としての仕事。悪魔のようなミランダの理不尽な命令に毎日振り回されることになる。この夜も彼氏ネイトの誕生日なのに突然ミランダ主催のパーティーへの同行を申し渡される。パーティーの後、慌てて会場を後にしようとしたところでクリスチャン(著名でフリーのイケメンジャーナリスト)と出くわす。アンディーはライターとしてのクリスチャンを尊敬しており彼にコメントを貰おうと大学時代に書いた学生新聞の記事などを郵送で送ったことがある。また『ハリー・ポッター』の出版前の原稿を入手するという無理難題をミランダから指示された時もクリスチャンのおかげで事なきを得た。

① *You are a vision.*

この言い方を私は始めて聞いた。亀山(2008: 117)は「君、すごくきれいだよ」と翻訳している。『ジーニアス英和大辞典』にも、「視力、先見性、空想、幻影、光景」などに加えて、「絶世の美人」という語義が掲載されており、例文として *She is a vision of loveliness* (彼女はこの世のものとは思えないほど愛らしい女性だ) が添えられている。以下に類例をあげる:

【実例】

a. You look great. - And you are a vision. (*The Cable Guy*, 01:05:43)

b. Look at you. You're a vision. That's a right fine dress you got on.

(*Wild Wild West*, 1:38:56)

- c. You're a vision in khaki. (*How to Lose a Guy in 10 Days*, 00:51:16)
- d. Oh, Eric, isn't she a vision? (*The Little Mermaid*, 00:51:04)
- e. Have I told you you're a vision? (*A Good Year*, 01:24:15)
- f. Oh, Mr. Taylor. You're a vision in green.⁴ (*Say Anything*, 00:13:39).
- g. You're a vision in white, sweetie, really... (*Monster-in-Law*, 2005, 01:25:39)

② *Thank God* ...

② *Thank God* も頻度の高い口語表現だ。 *Thank God!* (よかった!) と単独で用いることも多いが [*Thank God* 文] として用いられるのを覚えておくべきだろう:

【実例】

- a. Thank God it's Friday. (これはあまりに有名なので出典はなし)
- b. Thank God I'm alive! (*Full House*, S5Ep120)
- c. Oh, thank God you're okay (*Full House*, S6Ep121).

また不敬を避ける為に *Good* を *Goodness* に入れ替えることがある:

【実例】

- a. Thank goodness you are safe. (*Mighty Morphin Power Rangers: The Movie*, 00:27:13)
- b. Oh, thank goodness we're coming out of the asteroid field. (*Star Wars, Episode V - The Empire Strikes Back*, 01:03:12)
- c. Nick, thank goodness you came. (*Roman Holiday*, 00:51:58)

③ *I hope not*.

一般的に *not* は否定の *that* 節を代用すると考えられるので、ここでは以下のように解釈できる:

- (1) I hope you are not as nice as I thought.

⁴ この例から *You are a vision* は男性に関しても使われることが分かる。

対応する肯定の形として *I hope so* もよく用いられるが、こちらでは *so* は肯定の *that* 節を代用形と考えられる。もしこの場面で使われれば、以下のように解釈される:

(2) *I hope you are as nice as I thought.*

論理的に考えれば、*I hope so* の否定は *I don't hope so* だがこれは用いられない (Swan 2005: 530-531)。試しに *British National Corpus (BNC)* と *Corpus of Contemporary American English (COCA)* を使って検索してみた。BNC では 1 例もヒットしない。COCA では 2 例ヒットがあったが、話者はいずれも英語母語話者ではなかった。*I don't hope so* がなぜ使われないかが問題になるが、そもそも(2)の否定文である(3)が使用されないからだろう⁵。

(3) ?*I don't hope you are as nice as I thought.*

I hope so タイプの文を許す動詞は *hope* の他 *think* や *suppose* など限られており、対応する否定文の容認度もやや複雑だ。Swan (2005: 530-531) を参考に以下の表にまとめた(参考までに COCA での頻度を数字で表した):

⁵ [*do not hope S*] と [*don't hope S*] は大変頻度が低く、COHA ではそれぞれ 1 例が見つかるのみである:

- (i) a. ...but I do not hope it is you.
- b. I don't hope she quit watching like I did.

Positive	Negative 1 (<i>not verb + so</i>)	Negative 2 (<i>verb + not</i>)
<i>I think so.</i> 2839	<i>I don't think so.</i> 4135	? <i>I think not.</i> 465
<i>I hope so.</i> 1082	<i>I don't hope so.</i> 2	<i>I hope not.</i> 568
<i>I'm afraid so.</i> 147	<i>I'm not afraid so.</i> 0	<i>I'm afraid not.</i> 137
<i>I suppose so.</i> 284	<i>I don't suppose so.</i> 6	<i>I suppose not.</i> 122
<i>I expect so.</i> 20	<i>I don't expect so.</i> 0	<i>I expect not.</i> 5
<i>I believe so.</i> 264	<i>I don't believe so.</i> 168	<i>I believe not.</i> 25
<i>I imagine so.</i> 29	<i>I don't imagine so.</i> 2	<i>I imagine not.</i> 11
<i>I guess so.</i> 696	<i>I don't guess so.</i> 4	<i>I guess not.</i> 364
<i>I reckon so.</i> 10	<i>I don't reckon so.</i> 2	<i>I reckon not.</i> 11
<i>I thought so.</i> 271	<i>I didn't think so.</i> 172	<i>I thought not.</i> 35

(斜線のある文は容認不可能; ?はやや不自然)

④ *If it weren't for the stupid boyfriend...*

*If it were not (weren't) for...*は頻度の高い定形表現で「もし...が(い)なかったら」の意。仮定法なので、規範的には *were* が使われるべきであるが、インフォーマルな口語では *was* も使うことができる(Swan 2005: p. 238.):

【実例】

- a. I'm from a blue collar family, and if it weren't for the lessons I got in public school, I never would have learned the violin. (*Music of The Heart*)
- b. I wouldn't have made this if it weren't for you. (*Officer and Gentleman*)
- c. If it wasn't for me, Joey and Jesse would have never met. (*Full House*, S2Ep37)
- d. If it wasn't for him, the rain would have ruined your car. (*Full House*, S8Ep188)

この表現における *were* と *was* の交替はアメリカ英語・イギリス英語双方に見られ Corpus of Contemporary American English (COHA) と British National Corpus (BNC) における比率は以下の通り:

	were	was
COHA	1217	570
BNC	90	120

⑤ *Evidently*

⑤ *Evidently* の部分もとても面白いと思った。亀山(2008: 117)では「そのようだね」と翻訳されている。*Absolutely*、*totally*、*certainly*、*definitely*、*exactly* などと同様に、*evidently* も *yes* の意味で用いられるようだ。

【実例】

- a. He went in without 'em. ~ By himself? ~ Evidently. (24, 2001, 02:28:43)
- b. Is he all right? ~ Evidently. (*Rio Lobo*, 1970, 01:35:12)
- c. Sweet enough? ~ Evidently. (*Notes on a Scandal*, 2006, 00:06:11)
- d. Say, I know him. He wept when his wife died ~ He was condemned for that? ~ Evidently. (*Alphaville, une étrange aventure de Lemmy Caution*, 1965, 00:43:11)

参考までに *Evidently not* は *no* の意味で用いられるようだ。

⑥ *gotta*

Gotta はアメリカ口語英語を習得する上で避けては通れない表現である。確かにインフォーマルな響きはあるが、*got+to* の音声上の縮約形にすぎないので特に無礼と言うわけではないだろう (小林 2010: 41)。*Wanna* (*want+to*)、*gonna* (*going+to*) と合わせ、ぜひ運用できるようになっておきたい。大げさな言い方であるが *gotta*、*wanna*、*gonna* に慣れておかないとアメリカ英語の理解はなかなか困難だ。

ちなみに *I gotta go* はイディオムと言ってよい程このチャンクで用いられる。アイガラゴーと聞こえる。中学生ぐらいのころだったか、『大草原の小さな家』(*Little House on the Prairie*, 1974–1983) が NHK で放映されていた。始まったばかりの音声多重放送に耳を傾けていると、このアイガラゴーにはじめてでくわした。英語学習者として私の中の「？」で長年有り続けたが、あるとき疑問が溶け大げさなようだが嬉しくて涙が出そうになった。ちなみ

にこのアイガラゴ、電話を切る時の決まり文句の一つでもある。

⑦ Are you sure? 'Cause my editor for New York Magazine is inside and, you know, I could introduce you two.

下線部⑦に関しては *because*-節が何を修飾しているのかが問題になる。直前の *Are you sure?* との関係が強いが、この文を直接修飾する訳ではなく、アンディーにこう質問する理由をこの *because*-節は表していると考えられる。以下のように補足すると理解しやすくなるだろう(追加箇所は下線部分):

Are you sure? I'm asking you this because my editor for *New York Magazine* is inside and, you know, I could introduce you two.

(本当に帰っちゃうの? こんなこと聞くのはどうしてかっていうと、ニューヨーク・マガジン誌の僕担当の編集者さんが来ていて君を紹介できるからなんだけど。)

Sweester (1990: 77)によると *because*-節には以下の3用法がある:⁶

(1) a. *content conjunction interpretation* (内容領域の接続詞の解釈):

John came back because he loved her.

(彼女を愛しているから John は戻った。)

b. *epistemic conjunction interpretation* (認識(推論)領域の接続詞の解釈)

John loved her, because he came back.

(戻ったのだから、John は彼女を愛しているのだろう。)

c. *speech-act conjunction interpretation* (言語行為領域の接続詞の解釈)

What are you doing tonight, because there's a good movie on.

(おもしろい映画がやってるから聞くんだけど、今夜何する予定?)

「内容領域の解釈」が一般的な *because* の用法。「認識(推論)領域の解釈」では主節に話者の推論が、*because* 節では話者がその推論に至った理由が述べら

⁶ 「内容領域」「認識(推論)領域」「言語行為領域」という訳語は柏野(2010: 23-25)による。

れる。「言語行為領域の解釈」では、主節は(多くの場合は)疑問文で *because* 節で話者がその質問をした理由が表現されている。下線部⑦の *because*-節が「言語行為領域の接続詞の解釈」を持つことは明らかだ。

⑧ *stuff*

インフォーマルな会話などで *thing(s)* に代わって用いられることが多い不可算名詞。

【実例】(以下の例は全て『プラダを着た悪魔』から)

- a. You know, I'm still learning about this stuff and...
- b. I should read your stuff.
- c. ...you're the one who said you don't really care about this stuff. And you don't really care about fashion. You just wanna be a journalist. What a pile of bollocks.
- d. Do you just write stuff like that down and then file it away to use on us girls?

⑨ *not half bad*

この表現も私にあまり馴染みがなかった。亀山(2008:119)の日本語訳は「まんざら悪くない」。意味に関しては諸説あるようだがここでは *very good* と解釈してよさそうだ:

【実例】

- a. You know that's not half bad. I must come up with a name for that. (*Casino Royale*, 2006, 01:13:13)
- b. You know, poker isn't half bad. (*Fried Green Tomatoes*, 1991, 00:37:38)
- c. We got a house band you could use. They ain't half bad. (*Stuck On You*, 2003, 01:40:58)
- d. ...and as it turns out, not a half-bad teacher. (*The Guardian*, 2006, 01:28:47)

あとがき

『プラダを着た悪魔』(*The Devil Wears Prada*)の一節から口語表現を9つ取り上げて検討した。使われている表現はどれもごく初歩的なものであるが、こうした慣用的な口語表現を日本の中学校・高校の英語の授業で学ぶ機会が少ないのではないだろうか。英語の映画やテレビ番組は一般的な英語学習者には歯が立たないものが多い。話す速さや聞きなれないネイティブ発音はもちろん難しさの要因であるが、慣用的な口語表現をそもそも知らないということもあろう。英語字幕を読んでも意味がわからないような場合には、聞いただけで分かるはずがない。基礎をしっかりと固めた学生であれば「学校英語」から「口語英語」への橋渡しはそれ程難しいことではないと思う。ただ、なにより慣れることが必要なので、粘り強く取り組むことが必要である。

【参考文献】

- Davies, Mark. *The Corpus of Contemporary American English: 450 million words, 1990-present*. Available online at <http://corpus.byu.edu/coca/>, 2008-.
- Davies, Mark. *BYU-BNC*. (Based on the British National Corpus from Oxford University Press). Available online at <http://corpus.byu.edu/bnc/>, 2004-.
- Schiffrin, Deborah. *Discourse Markers (Studies in Interactional Sociolinguistics)*. Cambridge University Press, 1987.
- Swan, Michael. *Practical English Usage*. Third Edition. Oxford University Press, 2005.
- Sweester, Eve. *From etymology to pragmatics: Metaphorical and cultural aspects of semantic structure*. Cambridge: Cambridge University Press, 1990.
- The Devil Wears Prada (プラダを着た悪魔). 脚本: Aline Brosh McKenna. 監督: David Frankel. Fox 2000 Pictures. 2006.
- 映画英語教育学会東日本支部. 映画英語授業デザイン集. 名古屋市: フォーイン スクリーンプレイ事業部, 2012.
- 亀山太一, 編. プラダを着た悪魔 (名作映画完全セリフ集). 名古屋市: 株式会社フォーイン スクリーンプレイ事業部, 2008.

- 小林敏彦. 口語英文法の実態 Giving Shape to Colloquial English Grammar. 小樽商科大学出版会, 2010.
- 倉田誠, 編. 映画で学ぶ英語学—English Linguistics through movies. くろしお出版, 2011.
- 柏野健次. 英語学者が選んだアメリカ口語表現. 開拓社, 2006.
- . 英語語法ライブラリ ペーパーバックが教えてくれた. 東京: 開拓者, 2011.
- . 英語語法レファレンス (Kashino's Reference Book on English Usage). 東京: 三省堂, 2010.
- . 英語語法詳解. 東京: 三省堂, 2012.